

# 都市魅力を訴求するシティプロモーションの定量的評価方法の構築と事例分析 - 全国37道府県庁所在地を事例に -



大学院理工学研究部(工学)  
特命助教 阿久井 康平

研究分野

Research area

都市計画・建築計画 土木計画学・交通工学

研究のキーワード > 都市・地域計画, 地域都市計画

研究内容

Research content

わが国の各都市において、独自の都市施策や情報発信によって都市魅力の差別化を図ることが重要視され、なかでもシティプロモーション(以下:CP)といった取り組みが都市魅力発信の戦略の一環として取り込まれつつある。その一方で、わが国のCPに関する定量的な評価研究は見当たらない。そこで、本研究では都市魅力を訴求するCPを定量的かつ簡易的に評価する方法論を構築するとともに、事例分析による観光政策との関係を検証・考察することを目的としている。

研究のポイント

Research point

本研究では観光統計資料を得ることが可能な38道府県庁所在地を対象とし、(a)観光入込客数、(b)特産品検索件数、(c)観光指数、(d)特産品指数の4つの評価指標を扱った。また、(a)(b)の2軸で示す関係をCPの「体力」、(c)(d)の2軸で示す関係をCPの「生産性」と定義し、CPを定量的・簡易的に評価する方法論を構築するとともに、各都市の布置関係を考察した。以上の知見より、松江市や静岡市など特筆すべき都市を抽出し、CPが観光誘客に効果的に寄与していることなどを解明した。

研究への取組、今後の展望

これまでの都市及び地域に係る主な研究として、近代の都市計画により多数の橋梁が集中的・面的に架設された背景に着目し、景観史と景観工学の観点からそのデザインの展開と総合的景観史に関する研究に取り組んできた。その一連の成果として取りまとめた博士論文が土木・建築分野の年間優秀博士論文として位置づけられる平成29年度前田工学賞(土木分野)を受賞した。さらに、日本建築学会近畿支部都市計画部会第4回アーバンデザイン甲子園(2013年12月)や土木学会土木デザイン設計競技景観開花。11-集う-三位佳作・特別協賛賞(2014年12月)など設計競技での受賞歴も有する。

加えて、建設コンサルタント在籍時においては、東日本大震災により被災した女川町の復興計画や宇治市の重要文化的景観地区の都市計画・デザインやまちづくりに関する実務も行ってきた。

今後の研究への取り組みとして、これまでの研究・実践の蓄積を最大限に活かすとともに、富山の持続可能な都市・地域づくりやコンパクトシティ論の考究、シティプロモーションと連動したまちなかの魅力や回遊性の向上に関する研究に努めて行きたい所存である。

## 研究 REPORT

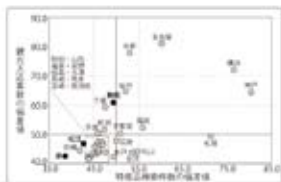


図1 CPの「体力」の位置付け

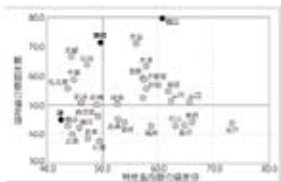


図2 CPの「生産性」の位置付け

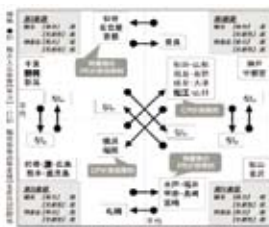


図3 「体力」と「生産性」の布置関係の移行(OZ)

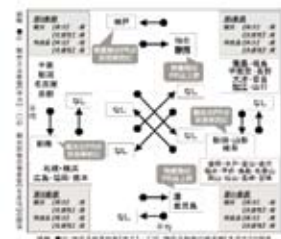


図4 「体力」と「生産性」の布置関係の移行(OZ)

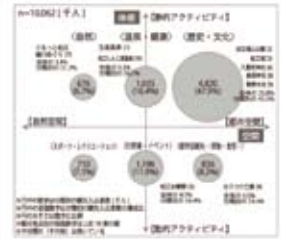


図5 松江市の観光政策に関する事例分析



図6 津市の観光政策に関する事例分析